



発行元：iP-U 事務局 〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350 宇都宮大学 Tel.028-649-5411 / 発行日：令和元年 11月 15日

## 産業や社会に 直接関係しないように思える研究をすることについて

iP-U は、将来は研究者やエンジニア、理数系教員などになりたい高校生が集まって始まりました。これまで皆さんに提出してもらった成長報告書や講座のリフレクションシートを読むと、皆さんの目標や興味が、高くなおかつ科学分野以外にも広がっていることがわかります。

今回は、ある受講生からの「文系の研究がしたい」という相談への、大庭亨先生の回答を掲載します。ここに出てくる「文系の研究」は、物理や数学、天文学など一見すると産業や社会に直接関係しないように思える分野の研究にも通じるところがあります。自分が本当にやりたいことを考える手助けになるかも。

### 受講生の相談「将来、文学の研究をしたいのですが…」

#### 大庭先生の回答

歴史や文化の研究は、「実学」と違って社会に役立たないものではないかと、社会に必要とされていないのではないかと、少し気になっているのですね。だから、自分の好きなことを研究しようとするのは、もしかしたら間違いではないかと迷っているのですね。

ご質問に対する、私の考えを以下に記しましょう。

- ①歴史や文化の研究は、決して役立たないものではなく、むしろ不可欠なものです。
- ②必要とされるのは、それ以外に答えを探す方法がないからです。
- ③「好き」という気持ちだけで研究することを、私は間違いとは思いません。

例えば、経済や政治や社会に関する現在の問題を、現代の状況だけで分析したり、判断したりするのは愚かなことです。過去の人類の経験は、経済や政治や社会を適切に動かすための最も有用な教科書です。古来、中国や日本では、為政者の最も重要な素養は歴史と倫理でした。例えば、GAFA やファーウェイへの規制のことも、新興国と覇権国家との対立と捉えれば、同種の例は歴史の中に散見されないでしょうか。自然科学は実験できますが、人間科学（社会科学）は実験できません。したがって、偶然にせよ意図的にせよ、これまでに経験したこと、これまでに起こったことを実験事実として分析して（ケーススタディ）、そこから知恵を抽出するということは、自然科学の実験に相当する極めて重要な作業です。このことをさらに考察すると、それまでに起こったことを分析する前に、その「それまでに起こったことについての記述」をどのくらい信用してよいのかということも、分析の対象であることに気づきます。また、その記述内容を分析する視点も、決して一つではありません。

どんな視点で物事を見るかということは、分析や判断の結果を 180 度変えることすらできる、非常に重要なファクターです。ニュートンやライブニッツは、力学や微積分の中に神を見ようとしたのでした。であるなら、彼らを近代的知性と見るのは、近似解に過ぎないのではないのでしょうか。その時代、その時代の「時代の精神」（常識とか共

通了解のようなもの)によって、人々の考え方も、人々の行動の仕方も制約を受けています。「時代の精神」を明らかにするのは、歴史や文化の研究者の仕事です。

人類が経験したことから知恵を抽出すること、その抽出方法(視点)そのものを開発すること、その成果を社会に公表すること、これが歴史や文化の研究者(歴史や文化についての学問)の役割だと思います。そしてそれこそが、経済や政治や社会に関する現在の問題を解決する手段になるのです。歴史や文化の研究の意義を、「人々の心の豊かさの涵養」だけに求める必要はないのです。

中世社会になぞらえて言うなら(やや大胆に近似するなら)、学者(研究者)とは、イコールお坊さんです。この世界の成り立ちを理解し、その原理に基づけば、(人々の、または自分の)過酷な生のあり方を変えることができる(問題を解決できる)というのが、ヨーロッパでも日本でも、当時の「時代の精神」でした。空海や道元は中世日本の第一級の秀才達ですが、彼らもそう考えたのだと思います。この世界の成り立ちを理解する手がかりは、当時あっては經典であり、宗教的体験でした。そして、その原理に基づく祈りや呪術が、人々を救う力を「実際に」持っていたのです。原理をより深く理解し、より強い「救う力」を得るためには、全身全霊を上げて修行しなければなりません。その結果として、お坊さんは食糧生産活動から遠ざかり、人から施しを受けて生きることになります。その施しは、お坊さん(学者)にとっては、身につけた知恵を人々に還元するための理由であり、施す側の人々にとっては、過酷な生のあり方を変えるために全身全霊を捧げる人への敬意、あるいは呪術の力を優先的に享受するための権利なのです。この構図は、現代でも全く変わっていません。研究が学問であるためには、一定の条件を満たす必要があります(「研究倫理ワークショップ」でお話ししましたね)。学問としての質を高めていくことと、社会にその研究の成果を還元していくことです。修行に励み、呪術の力を高めるといふことですね。

私は、空海も道元も、最初から人々を救いたいという気持ちを持って研究(修行)していたのだらうと思います。しかし、本当は「世界の成り立ちを知りたい」という気持ちの方がずっと強かったのだと彼らが告白しても、全く不思議を感じません。より強い気持ちで研究する人でなければ、よく効く「まじない」(良質な研究成果)を手に入れることはできないからです。だから、「好き」という気持ちだけで研究をすることを、私は「間違い」とは思いません。中世ヨーロッパ史の泰斗であった阿部謹也は、かつて自分の先生から、研究テーマを選ぶときには「それでなければ死んでしまう」ようなことをテーマに選べとアドバイスされたと言います。「それでなければ死んでしまうほど好き」なことなら、一生を支える研究になります。そして、その研究が上記の条件(質を高める、社会に還元する)を満たすなら、それは学問になります。つまり、人々を救う呪術になるのです。だから、文学にせよ自然科学にせよ、「好き」を追求してよく効く「呪術」にするといふところこそが大事なのだ、私は思います。

### お待たせしました 「グローバルコミュニケーション」 開催します

台風により延期になっていました、必修科目「グローバルコミュニケーション」を開催します。8月に一度受けた方も受講できます。

**と き** 令和2年1月26日(日)10時~16時  
**と ころ** 宇都宮大学峰キャンパス UUプラザ2階  
※必修科目ですので未受講の方は受講してください

**編集後記** 皆さんが小学生の頃に地球を出発した「はやぶさ2」が、リュウグウでの長い任務を終え、今月13日に地球に向かって出発しました。地球に帰還するのは2020年12月。リュウグウから持ち帰った玉手箱には、どんなワクワクが詰まっているのか楽しみですね。

### 11月後半の予定

- 16日(土)17日(日)  
GSC 全国受講生研究発表大会
- 16日(土) 一日体験化学教室  
情報オリンピック・1次予選
- 17日(日) 宇都宮大学UUSで  
小学生に理科実験を教えてみよう②  
Ec Lab
- 23日(土)24日(日)  
宇都宮大学「峰ヶ丘祭」
- 23日(土) 光学顕微鏡で覗く  
生物のマイクロワールド
- 24日(日) 宇都宮大学UUSで  
小学生に理科実験を教えてみよう③
- 30日(土) プレゼン力養成講座③  
幸運をつかむコツ  
(科学的発見のケーススタディ)